

第 2 回 一般財団法人レオーネ 理事会議事録

日 時：2024 年 9 月 16 日 12：30～14：00

場 所：下田ベイクロシオ ラウンジ

出席者：田中理事長・楠山理事・渡邊理事・武内理事

ゲスト：里見和洋氏(公益財団法人全日本空手道連盟 顧問)

議 題：伊豆賀茂郡の農業活動への取り組みについて

楠山理事「田中理事長から、まず 1 次産業をクローズアップして賀茂郡における農業に携わる子供たちへ支援を行っていきたいという方針が出された。そこで、現在南伊豆の高校で農業関係の活動をされている里見氏に会議に参加頂き、活動内容をお聞きして、何かしらの形でお互い協力できればよいと考えている。」

里見氏「子供たちは地域の宝である。農業というのは食の 1 丁目 1 番地であり、とても大事である。自身がコーディネーターをしている月に 1 度の経営者達による勉強会の場において、この先この地域がどうなるか分からなく、高校は統廃合の可能性がある、地域でなにかできないかという話の中で、リタイア組は農業に関心があるのではないかと考えた。それから、大人のための農業実践講座を開設し、高校生が講師となって大人を教える座学や農作物を生産して収穫する取り組みを行っている。地域課題については、学校の偏差値至上主義によって、地域特性と教育行政が合わず、地域外に子供たちが流出していることだと考えている。我々としては色々な体験を子供たちにさせることで、地域に帰ってくるきっかけになれば、地域経済に貢献できると考えている。(財)レオーネへの提案としては、1 次産品を高校生が販売するのを応援してみてもどうか。」

田中理事長「食料自給率は、大きな課題である。野菜工場など次世代の農業によって生産された生産物を地域内で消費してもらう仕組みをつくり、農業のイメージも変えていきたい。また、子供たちには、我々の取り組みをきっかけに起業してほしいし、もっと大きな夢を持ってもらいたい。」

渡邊理事「先ほど、里見氏から提起された地域外へ子供たちが流出している問題について、私が現役で伊東に勤務していた時にも感じていた。下田の子供たちは、中学校を卒業すると地域外へでていく子が多いが、伊東の子供たちは地元に残る子が多い。」

楠山理事「地域外への流出は大きな課題だが、最近は、逆の動きで下田への移住が目立つようになってきた。それは、下田中学校にサーフィン部ができたことにより、一家で移住してきているケースが挙げられる。今後、高校にもサーフィン部ができてくると更なる移住や定住が望めると考えている。」